

愛知県退職校長会会報

目次

会長あいさつ	1
退職校長会総会報告	1
退職校長会入会状況	1
役員名簿	2
全連退総会報告	2
生き生きライフ	2・3
会員交流広場	4
現職校長会情報	4

題字・切り絵
25年度入会
古池拓雄 (元 稲沢・稲沢西中)

会長あいさつ



交流と連携

会長

中川 正明

去る三月十八日、平成二十七年年度の総会において引き続き会長を仰せつかりました。昨年度同様、役員の皆様、会員の皆様の温かいご支援を戴きながら、会の運営に携わって参る所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私たち退職校長会の活動は先輩諸氏の思いを引き継ぎ、広報活動を通して会員の皆様との交流を進めてきております。併せて全連退の組織の一員として全国や東海北陸の仲間との交流も続けてきております。

昨年度は県内の退職校長会との交流連携活動を進めたいと事務局を通して話し合いを進め、忙しい中でしたが、役員の研修会を合同で実施することが出来ました。

今年度の活動は、更に一歩先へ進め、より充実した研修

会の開催を夢見ています。次に、先にも述べましたが活動の要である会報による広報・交流活動の充実です。会員の皆様に喜んでいただけるような会報づくり、とりわけ双方方向の情報交換できる会報づくりに向け努力を重ねて参ります。

次に会の報告事項です。

この三月に退職された二百五十二名の校長先生方にご入会いただきました。ありがとうございます。お陰で諸経費を納入いただいている会員総数(七年会員)は千七百二十五名になりました。

入会金三千円と年千円の諸経費を七年分ご負担いただいております。八年目以降は経費の負担はいただきませんが、会員資格は終身です。

また、八年目以降の会報の送付につきましては、事務局へご連絡いただき、実費にてこれまで通り、お送りしております。継続購読も、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今年の十月には全連退設立五十周年記念事業が開催されます。私たち愛知県退職校長会も来年には設立五十周年を迎えます。これまでの継続に感謝し、今後も会員の堅い絆を更に強固なものにすべく節目の年にしたいものです。

平成二十七年 度 県退職校長会 総会報告

本年度の総会は、三月十八日(水)に名古屋グアードンパレスにて開催されました。

総会の冒頭挨拶で、中川正明会長は、「安藤公明前会長の皆さんの意志を引き継ぎ、現職の校長会との交流を深めることと、広報の充実を図ることを目指して活動を進めてきました」と話されました。現職の校長会とは、合同の研修会や、懇親会を行うことができ、広報の編集では、「生き生きライフ」、「会員交流広場」の欄を設け充実を図っています。「今後も、役員さんと力を合わせて、皆さんが会員になって良かったと思える退職校長会にしていきたい」と、決意を語られました。

その後、議案の審議が成され、平成二十六年度事業報告、会計決算報告並びに会計監査報告、平成二十七年事業計画案、予算案、役員選出と全ての議案が承認されました。

役員は平成二十六年度に続き中川正明会長、加藤正躬副会長と柴田規矩司副会長が再任されました。そして、加藤學氏と大橋勝氏、太田武司氏

が新副会長として選任されました。また、加賀昭一副会長、小坂愛祐副会長、夏目忠士副会長をはじめ八名の皆様が退任されました。長く本会を支えていただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



平成27年度 愛知県退職校長会 入会状況
(21年度～27年度会員数) H27.7.1現在

年度	21	22	23	24	25	26	27	計
地域								
尾張	97	90	73	92	85	73	83	593
名古屋	67	67	64	67	66	64	61	456
三河	98	92	87	110	86	95	108	676
合計	262	249	224	269	237	232	252	1,725

監事	(尾張)	新海 弘康
	(名古屋)	松本 朋充
	(三河)	鈴木 雅人
副支部長	(尾張)	広沢 憲治
		伊藤 辰男
	(名古屋)	鈴木 博志
		辻 正人
	(三河)	水越 光久
		安藤 正紀
活性化委員	(尾張)	岡田 康夫
	(名古屋)	小田原晴夫
	(三河)	杉浦 宏幸

戸張敦雄会長は、齒切れのよい口調でしっかりと挨拶をされた。(1)東日本大震災の被災地復興と教育活動正常化の支援(2)質の高い学校教育を実現するための教育諸条件の整備・充実の意見具申と要望活動(3)年金制度改革・高齢者医療・介護保険制度等福祉の増進(4)新設された「総合教育会議」における地域の動向注視と意見具申(5)国民の祝日「教育の日」制定と活動の充実を図り教育尊重の気運喚起・醸成(6)創立五十周年を迎える意義は五十年の伝統、組織の拡充・活性化が主な内容であった。

会員は九〇七九六人おり、副会長会二回・常任理事会五回・部長会十五回の活動が展開されたとの報告あり。

閉会行事では、東海北陸地区選出で監事を務められた本県の加賀昭一氏に感謝状と記念品が贈呈された。

午後の講演会は（日公連）

常任理事専門員の鈴木日出男氏による「超高齢社会・人口減少社会と公的年金制度」——持続可能な年金制度をめざして——であった。老後の生活を年金に頼っている高齢者を犠牲にするマクロ経済スライドの見直しは、年金不信を国自らが作り出すこととの提言があった。また、今後の社会保障制度のあり方としては、

(1) 二十一世紀型日本モデル

(2) 社会保障は、高齢者世代の中心から全世代を対象とする社会保障へ転換
社会保障の給付財源は年

年齢別から負担能力別切り替え、資産を含めた負担能力に応じた負担へ転換が不可欠。

※ニコラス・バー教授の指摘
策・平均年金額の引下げ

- ・支給開始年齢の引上げ
- ・保険料の引上げ
- ・国民総生産の増大政策

21年度入会 久野 三雄
(元 名古屋・城西小)

教職に就いて三十数年間、地域へ目を向け、地域のことを考えようとしなかった。仕事を優先と言えば聞こえはいいいが、家庭と職場を往来するだけで、無関心のままであった。

退職年度に近づく頃、地域では新しいまちづくりをするための土地区画整理事業がスタートした。生活インフラを整備し、住宅や商業施設等を

誘致する取り組みである。事業を進めるための総代選挙や土地評価員の依頼があり、不安はあったが引き受けることにした。五年後、会計担当の役員として声がかかり、少しでもお役に立てればという思いで、今日までお手伝いをしてきている。事業は半ばであるが、地域の発展が楽しみである。

この事業に伴い、地元にある神社の移築が必要となり、神社総代として、この委員会にもかかわっている。移築方法や資金集めなどの話し合いに参加するとともに、寄附金の協力依頼や集金に走り回っている。

来る十月の国勢調査の調査員の仕事にもかかわることに

23年度入会 坂本 憲昭
(元 名古屋・陽明小)

私の家から十分ほどの所に
中華鍋を伏せたような、小高
い丘があります。丘の上に登
ると、そこはまるで牧場のよ
うに見事に草が刈り込まれた
緑のオアシスです。

アスファルトの歩道が丘を取り巻くように円形に整備され、散歩やジョギングを楽しむ人が絶えません。三百六十度の大パノラマの中で雪化粧の御嶽山などを楽しむことができるからでしょうか。

この丘からの夕日が素晴らしいのです。私は、時間が許せば、日没の少し前に登り、散歩コースを何周も歩きます。そして、その時を待つのです。熟した柿のような太陽が沈むと、あかね色の夕焼けが広がり、遠くの山並みは黒いシルエットとなります。そして、や



がて間に溶け込まれ、足元には寶石をちりばめたような夜景が迫ってきます。

この丘、実は負の遺産です。今から五十年前に東海地方を伊勢湾台風が襲いました。その時に出したのが、大量の瓦礫。このゴミを積み上げたのが「滝ノ水公園」なのです。

当時、私は小学校三年生でした。港区に住んでおり、同級生を幾人も亡くしました。



「自分がこの年齢まで生かされている」ことへの不思議に感謝しながら、今日も緑のオアシスを歩いています。

行解相應

24年度入会 伊串 博

(元 一宮・神山小)

教育研究、とりわけ授業研究、学級経営研究、学校経営研究に勤しんできた現職時代。退職後の県教委勤務を経て、この四月より未来の社会や教育界を担う後進の人材育成に従事させていただいている。様々な経験を積んだ現職時代は、まさに人生の教養時代。そこで会得した珠玉の言葉や至宝の数々をまとめた県教委時代は、私にとって次の人生の準備時代であった。永い教師人生を歩む中で会得した至

福の数々。それらを後進に確実に伝播していきたい。これまでの多くの出逢いによって培われた「大志」を基に、魂の教育、教師としての矜持の生き方等を伝えたい。まさに、これからの私の行く道であり、私の人生の報恩時代の到来と心している。

禅語に「行解相應」という言葉がある。字義は、「理論的な理解」と「実践的な修行」の相応という意味である。つまり、常に、「理念」と「実践」が一致していることが何よりも大事であり、人はそのような人に信頼や共感を抱くものである。近年の生涯学習時代を迎え、私自身、「生涯」を「生きがい」と読み替え、様々な分野における社会貢献、社会奉仕に関わる中で、社会に一層寄与できる新たな自分との出逢いを楽しみたい。

黒紙好作を生きる

23年度入会 加藤 好美
(元 豊田・加納小)

退職直後、切り絵屋「黒紙夢創(こくしむそう)」を開店した。最初に、名刺を作った。表には、黒紙夢創店主・切り絵師黒紙好作と書いた。



27年の名刺の表

切り絵は、現職時代に級訓から始めて、退職時には、浮世絵の美人画を中心に切った。また、退職前から、切り絵教室を開いたり、市美展に入選したり。退職後は「何でも切ります」と名刺に書くなど、ジャンルを問わず、何でも切り絵にした。注文が多いのが、切り絵似顔絵である。ライフワークは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」で、今年中に、十二作目まで完成予定である。



27年の名刺の裏

裏は、シンガーソングライターの名刺である。地域への恩返しにと、自作曲「ふるさと猿投」を作ったところ好評で、昔やっていた曲作りが復活したというもの。定年三年目には「猿投フオーク村」を作り、初代村長として、昨年は、ミニを含め、十六回のコンサートを行った。

狐と狸

26年度入会 伊藤 慎司
(元 稲沢・大里東小)

病気の原因は九割がストレスである。
・ストレス解消にはちよつと悪いことをするといひ。
・タバコは、百害あるけど三

利あり。

勝手な理由をつけて、「タバコ止めない宣言」をした。長浜へドライブに行く途中、妻の一言に火がついた。

「ジョージ、タバコダメヨ」と言わせるよ。(また始まったか。それにしても、最愛の孫を使うとはなんと卑怯な)家に帰ってから、重苦しい陰湿なムードが続く。

翌日、帰宅すると、書斎の机の上に置き手紙があつた。そこで、「話し合いのきつかけをつくってくれてありがとう。まずは五分間俺の話を聞いてくれ」と言つて切り出した。「男には、人に言われて『はい止めます』というわけにはいかないことがある。自分のために、自分の意志で止めたという形を残したいんだ。だから、二度と同じことを言わないでほしい。これはお願いだ」妻はただ黙つて話を聞いている。

というわけで、それ以降、妻から「タバコ」という言葉は出なくなった。(めでたし、めでたし。作戦成功?…本当?…どうも?…)

策におぼれた狸より、狐の方が一枚上手だったようだ。

ろうけつ草木染は私のロマン

27年度入会 近藤 博子
(元 知立・竜北中)

ろうけつ草木染に出会って二十年。たくさん作品を作ってきた。ろうけつ草木染は布に手描きでろうをのせ、染める技法で、千三百年以上の歴史がある。植物や鉱石から採れる天然染料を使い、金属イオンと結合させ、発色させる。染料を混ぜ合わせ、媒染をかけ、自分で色を作り出す楽しさがある。時間を忘れて夢中になれる不思議な魅力がある。どんなことであれ、一つの道を究めるといふのは、大変な忍耐と努力が必要である。いつまでも健康で、生き生きとした密度の高い毎日を過ごしたいと思う。二メートル前後のタペストリーやのれん、パネルなど、大きな作品を中心に、Tシャツや日傘、ショールやハンカチなどを染めている。白い布に、図案を描き、ろうをのせ、何色もの色を染めてから、ペンジンでろうをおとした作品を蒸し、縫製して作品に仕上げる。作品作りは、私のロマンである。手描きの良さを伝えるためにも、今後、たくさん作品を紹介していきたい。



孔雀牡丹図

会員交流広場

めぐり逢いて



初夏の空



24年度入会 鶴飼 初恵

(元 一宮・中島小)

仮名に出合い、文字のリズムや線の奥深さにひかれ、楽しみながら学んでいます。

めぐり逢いて見しやそれとも
分かれ間に 雲隠れにし夜半の月かな

紫式部

初夏の丸山千枚田



24年度入会 白石 悟

(元 名古屋・井戸田小)

バスツアーで、初めて丸山千枚田へ。先人の知恵と努力が芸術作品のようなすばらしい景色を描き出していました。

会報を読んだの感想・意見や会員の皆様の作品【絵画・書・写真・短歌・俳句等】をぜひお寄せください。

詳細は、事務局まで。

現職校長会情報

平成二十七年愛知県小中学校長会総会が、五月十五日(金)に、日本特殊陶業市民会館で開催されました。

加藤会長は、「力強く、か

つ、しなやかに、リーダーシップを発揮する校長会」を目指そうと訴えました。議案の審議・承認、活動方針の採択が成され、新しい県校長会が力強く動き出しました。

平成二十七年愛知県小中学校長会

役員・理事一覧(敬称略)

●会長	東海	加藤千博(加木屋小)
●副会長(五名)	新城	伊藤雅朗(新城小)
	東	関口大介(富士中)
	東	山内敏之(山吹小)
	刈谷	今井雅良(蟹江中)
	刈谷	金原 宏(刈谷南中)
●監査(三名)		
	春日井	宮田健一(小野小)
	名東	長谷川京子(貴船小)
	高浜	野々山知久(高浜中)
●庶務理事(六名)		
	稲沢	清水 茂(稲沢東小)
	日進	久保田力(日進西中)
	中川	本部鉄男(昭和橋小)
	中	稲熊和己(前津中)
	西尾	稲垣 寿(西尾小)
	豊田	坂部良二(前山小)
●会計理事(六名)		
	海部	木下眞吾(蟹江小)
	岩倉	野木森広(岩倉中)
	千種	赤堀英則(内山小)
	千種	玉村文隆(城山中)
	碧南	中谷眞人(日進小)
	豊川	井上正英(小坂井中)
●専門委員会・部会理事(十三名)		
法制	梶田志津子(御園小)	



教育条件	二ノ宮正治(師勝小)
学校経営	高橋光雄(日進西小)
進 路	伊藤映充(幸田中)
保健体育	鈴木実俊(福岡小)
福祉安全	高橋由美子(山中小)
給 食	宮崎幸恵(清水小)
生徒指導	権田 昭(半田中)
特別支援	赤根昭英(大須小)
広 報	加藤雅也(緑丘小)
修学旅行	清水克博(香流中)
教育課題	原田隆行(鳳来中)
東陸小	水谷寛明(花ノ木小)

訃報(一)内はご逝去された日

雨宮 哲夫先生(七七・二・二二)

元 北名古屋市長立白木中学校
平成二十七年一月二十二日
から、六月十六日までにご逝去され、事務局に報告があった七年会員の方を掲載しました。

事務局だより

「生き生きライフ」を執筆していただいた会員の皆様、「会員交流広場」に作品をお寄せいただいた皆様には、ご多用の中、ご協力いただきありがとうございます。会員の皆様の退職後の生活が輝きを見せていることが伝わってきました。

事務局は、七月一日より事務局長の浅野隆義が退任し、新次長として前名古屋市長大手小学校長の大橋保友が着任しました。事務局員一同、皆様から信頼される事務局を目指して、今後も努力してまいります。

- 事務局長 水谷 朋和
- 事務局次長 栗田 錦治
- 事務局次長 大橋 保友
- 事務局員 加藤美津代

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九番一〇号

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

電 〇五二二六二一八五二

FAX 〇五二二六二一八〇七

E-mail ai-kocho@axel.ocn.ne.jp